

子どもの居場所づくりロードマップ

令和2年（2020年）3月

豊中市

1. ロードマップづくりの背景

本市では、これまで子どもの居場所づくりを推進するため、子ども食堂や学習支援のネットワークを構築するなど、地域の多様な居場所づくりや担い手を支援する取組みを行ってきました。加えて昨年度、子ども自身や、子ども食堂や学習支援なども含めた地域の多様な子どもの居場所の実態を把握するために、子どもの居場所づくりに関する地域資源調査・研究（以下、資源調査という）を、NPO 法人と協働で行い、子どもや居場所運営者が抱える課題と今後の方向性について示しました。

この資源調査の結果を基に、今年度、「子どもの居場所ネットワーク事業」として試行的に地域に入り、子どもの居場所の発掘・充実と学校を核としたセーフティーネットの構築に向けた取組みを行いました。

今後、公民協働で「豊中市全体を子どもの居場所に」することを将来的な目標として、その方針や体制について共有し、より効果的に取り組んでいくために、本ロードマップを作成しました。

2. 3つの取組み方針

資源調査の結果に基づき、「子どもの居場所ネットワーク事業」を効果的に進めていくために3つの取組み方針を以下に示します。

(1) 「ささえる場」を全小学校区に展開するための取組み

- ①立ち上げ校区数の目標：令和6年度末までに全小学校区に展開することを目標とします。ただし、地域の課題や資源環境を鑑みて、校区ごとの進捗や団体数の濃淡も考慮します。
- ②学校を核とした地域の担い手づくり：校区の地域性や学校との連携の取りやすさなど実現性や必要性の高い地域を中心に、学校を核とした担い手の組織化を行い、「ささえる場」（居場所）の立ち上げにつなげます。
- ③居場所立ち上げ希望者の募集・情報収集：「ささえる場」（居場所）立ち上げ希望者等を対象とした連続講座を開催します。また、豊中市社会福祉協議会や市民活動情報サロンと連携を深めながら、「ささえる場」（居場所）に関わりたい市民の情報収集を行います。
- ④場所等の資源の提供者の情報収集と居場所立ち上げ希望者とのマッチング（社会福祉法人の地域貢献、既存施設のタイムシェア化）：資源提供者の発掘や情報収集を行いながら、提供者へのタイムシェアを提案していきます。それらの資源と③で集まった「ささえる場」（居場所）立ち上げ希望者とのマッチングを行います。

(2) 「ささえる場」が学校・関係機関と連携し、子ども（家庭）を支援する仕組みづくり

- ①地域性に応じた既存の小学校区域・圏域ネットワークへのささえる場の位置づけ：居場所がある校区や圏域などにおける、地域性に応じた既存のネットワーク組織（子どもを守る連絡会、子育てふれあいの会など）の把握等を行います。また、それらのネットワークにおける「ささえる場」（居場所）の位置づけの調整を行います。
- ②小学校区域・圏域ネットワークによる、すごし場からささえる場への架け橋。地域内での支援のためのつなぎ：①のネットワークにおいて、居場所コーディネーターとの連携を進めます。また、居

場所コーディネーターがつなぎ手となり、すごし場（学校、公園、公共施設など）で見つけた「気になる子ども」が「ささえる場」（居場所）につながるよう支援します。

③圏域ネットワーク内での、居場所運営者が個人で課題を抱え込まないための、ささえる場同士の相互の協力体制による地域内での支援体制づくり：「ささえる場」（居場所）が抱える課題を地域で共有することにより、相互に課題解決できるような圏域交流会や勉強会を開催します。また、(3)－④の子どもの居場所づくりアドバイザーの仕組みと連動させながら、実践者や専門職の派遣なども行います。

④市域ネットワークで居場所が抱える課題が大きい子ども（家庭）を、公民が連携して支援する仕組みづくり：特に課題が大きい子ども（家庭）を抱える「ささえる場」（居場所）とともに公民連携の支援モデルを構築し、慎重に検証を行いながら、仕組みづくりを進めます。また、「ささえる場」（居場所）同士の連携や関係機関へのつなぎ等に関する個人情報マニュアルの作成を検討します。

(3) 「ささえる場」の安定的な運営に向けて諸資源を確保する仕組みづくり

①圏域ネットワークでの、すごし場とささえる場等による地域資源の共有、発掘。相互補完関係構築：(2)－③で示した圏域交流会に、「すごし場」（公共施設など）の運営者や子ども以外の世代が集うコミュニティの運営者や事業者、市民公益活動団体なども参加を促し、相互に資源を補完できる関係性を構築します。

②市域ネットワークでのささえる場同士の連携により、資源の共有、居場所運営のサポート：市域全体における「ささえる場」（居場所）運営者と豊中市社会福祉協議会、子どもに関わる業務を行う行政各部門が連携するための「こどもまんなか円卓会議」を開催し、そこでの情報共有を通じて、資源の共有や居場所運営のサポートにつなげます。また、すでに活動しているボランティアのスキルアップを目的とした連続講座を開催することで、居場所の人材育成を行います。

③支援者と、居場所活動を応援する企業・事業所や大学等とのマッチングを目的とした資源の提供・共有等の仕組みづくり：子どもの居場所づくりポータルサイトを活用し、物資・金銭・人材・場所等の資源情報の収集・提供や支援者とのマッチングを行うとともに、それらの寄付の仕組みづくりや基金等の運営資源確保に向けた検討を行います。

④子どもの居場所づくりアドバイザー（実践者、衛生、広報、福祉制度、法律等の専門家）派遣：子どもの居場所を立ち上げもしくは継続する上で、必要な専門知識や技術をサポートできる人材派遣の仕組みを構築します。

(4) 3つの取組みを包括的に推進する仕組みづくり

①圏域コーディネーターの配置：市内それぞれの圏域において、市域コーディネーターと協働して子どもの居場所づくりをサポートする圏域コーディネーターの配置を行います。

②市域ネットワークによるすごし場とささえる場を交えた、包括的な居場所に関する方向性や課題の共有を行う会議の実施：(3)－②の「こどもまんなか円卓会議」で提案された課題から、市域全体で多様なセクターが解決すべき事項を抽出し、ワーキンググループを立ち上げて、課題解決に向けた継続検討を行います。

③居場所運営団体のスキルアップと新規支援者獲得を目的とした講習会の実施：子どもの居場所の

立ち上げや既に活動に関わるボランティアを対象とした三回連続講座を毎年開催します。

- ④各地域の多様な分野の居場所関連情報の集約、用途別のマップ作製、啓発：居場所運営者からの情報提供や地域のフィールドワークを元に目的別（支援者、学校向け、保護者向けなど）のマップを作成します。作成したマップは、用途に応じてポータルサイトや「とよふあみ」に掲載します。
- ⑤既存の関連事業を整理し、ネットワークや居場所コーディネーター等の資源が、有機的に連動する仕組みづくり：子どもに関わる既存の事業を把握・整理し、それらの事業において、子どもの居場所ネットワークや居場所コーディネーターなどの資源が有効に活用され、居場所の充実につながるための仕組みを構築します。
- ⑥地域の居場所や遊び場等の環境について、子ども（家庭）が参画し、意見が反映される仕組みづくり：新規の居場所立ち上げ時などを活用し、子どもが主体的に取り組むことができる事業の企画や実施を行います。

3. 公民の体制

(1) 子どもの居場所コーディネーターの主な役割

* 市域コーディネーターの役割

- ・市域における居場所同士や関係機関とのつながりづくり
- ・圏域コーディネーターの発掘と居場所立ち上げに向けた活動のサポート。
- ・すごし場とささえる場を交えた、包括的な居場所に関する方向性や課題の共有を行う市域ネットワーク円卓会議の企画と実施。ワーキンググループの運営。
- ・居場所で活用できる資源を掲載したポータルサイトの運営管理。
- ・ポータルサイトに掲載する資源情報の収集。
- ・多様な居場所や関連する資源を集約したマップづくりと「とよふあみ」への掲載。
- ・居場所を始めた人やすでに運営に関わっている人に向けて、スタートアップやスキルアップにつながる連続講座の企画と実施。受講生のサポート。
- ・新たに居場所を始めた人と居場所とのマッチング。
- ・次年度に向けた方向性を示すロードマップの進捗管理

* 圏域コーディネーターの役割

- ・学校を核とした居場所や支援者等の担い手づくり。
- ・小学校区域・圏域ネットワークによる、すごし場とささえる場のつながりづくり。
- ・圏域ネットワークでの、すごし場とささえる場の連携による居場所同士の情報共有・連携ができるような、圏域交流会の企画と実施。
- ・小学校区域・圏域での資源（人材・場所・寄付者・事業者など）の発掘と情報提供。
- ・圏域内にある居場所の運営サポート。新規居場所運営者への助言。

(2) 市の主な役割

- ・子どもの居場所コーディネーターや居場所運営者が活動しやすい環境づくり（専門機関とのつながり、運営資金の確保の仕組みづくり、情報提供など）。
- ・学校を核とした地域の担い手づくりを進める際の推進校区の選定と学校などとのつながり。
- ・既存の小学校区域・圏域ネットワークへの「ささえる場」と居場所コーディネーターの位置づけに関する調整。
- ・既存の子どもに関わる事業に関する情報提供と本ネットワーク事業との庁内調整。
- ・圏域交流会や勉強会において、必要に応じて専門職の派遣を行う。
- ・円卓会議を行う際の庁内調整と情報提供。
- ・連続講座を行う際の広報協力、講師情報の提供。
- ・タイムシェアを行えるような施設の提供。公共施設の使用料減免に向けた検討。
- ・市域ネットワーク内で、特に課題が大きい子ども（家庭）を抱える「ささえる場」（居場所）と公民連携の支援モデルを構築し、仕組みづくりを推進する。また、「ささえる場」（居場所）同士の連携や関係機関へのつながり等に関する個人情報マニュアルの作成の検討。制度への位置づけ。
- ・ロードマップの進捗管理。

(3) 公民連携を進めていく上での留意点

- ・地域の実情に即した居場所の立ち上げ方法や、コーディネーションのあり方を協働で検討し、丁寧に事業を進めていくこと。
- ・常に子どもの人権を意識して、「こどもまんなか」であることを確認しながら進めていくこと。
- ・単純に数を増やすことだけに捉われすぎず、既存の居場所の継続性を考慮しながら、ネットワークづくりを広げること。

上記を踏まえながら、相互の専門性を補完しつつ子どもの居場所づくりを推進していきます。

子どもの居場所づくりロードマップ <令和5年（2023年）3月見直し>

※ 赤字下線は、前年度からの見直し部分

年度	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5	R6	(作業分担)		
							委託者(市)	受託者 (居場所CO)	居場所運営者
(1) 「ささえる場」を全小学校区に展開するための取り組み									
①立ち上げ校区数の目標 ※R2～NW加盟団体を基に算出	新規：野田 (準備中：庄内西、新田) 全18校区	新規：大池 既存：中豊島、南桜塚 全11校区	新規：東豊中、熊野田、島田、豊島西、上野 既存：中豊島、庄内南7校区 全16校区	新規8校区：新田、北緑丘、南桜塚、豊島、原田、豊島北、緑地、北条、 既存5校区：野畑、克明、上野、中豊島、野田、 (廃止等2校区：島田、桜塚) 全22校区	新規8校区 全30校区	新規9校区 全39校区	進捗管理	進捗管理	
②学校を核とした地域の担い手づくり	野田、庄内西、新田で試行実施	継続校区(庄内西、新田)の支援	継続校区(千成、少路)の支援	継続校区(少路)の支援	新規2校区選定・組織化支援	新規2校区選定・組織化支援	推進校区選定学校等との繋ぎ組織化支援	推進校区選定組織化支援	居場所立ち上げ希望者の体験受け入れ・助言
③居場所立ち上げ希望者の募集・情報収集	連続講座との連動	いこっととの連動(大池、中豊島、南桜塚) 他事業等との連携(上野、東丘)	いこっと、連続講座との連動(熊野田、新田)の支援 市民活動情報サロン、その他既存事業等との連携	いこっと、連続講座との連動(北緑丘、豊島西、豊南) 市民活動情報サロン、その他既存事業等との連携	いこっと、連続講座との連動 市民活動情報サロン、その他既存事業等との連携	いこっと、連続講座との連動 市民活動情報サロン、その他既存事業等との連携	広報支援 庁内調整 情報収集	連続講座の開催 情報収集	地域の情報提供
④場所等の資源の提供者の情報収集 居場所立ち上げ希望者とのマッチング (社会福祉法人の地域貢献、既存施設のタイムシェア化)	庄内西、原田でマッチング試行	島田(継続)	島田、原田、高川(継続) 地域の情報収集 マッチング いこっととの連動	原田、高川(継続)、中豊島 地域の情報収集 マッチング いこっととの連動	地域の情報収集 マッチング いこっととの連動	地域の情報収集 マッチング いこっととの連動	施設の情報収集 タイムシェアへの調整 公共施設の使用料減免検討	資源提供者の発掘 居場所立ち上げ希望者との調整	

年度	R1 実績	R2 実績	R3	R4	R5	R6	(作業分担)		
							委託者 (市)	受託者 (居場所CO)	居場所運営者
(2) 「ささえる場」が学校・関係機関と連携し、子ども(家庭)を支援する仕組みづくり									
①地域性に応じた、既存の小学校区域・圏域NWへのささえる場の位置づけ	居場所がある校区の既存NWの整理・調整	居場所がある校区の既存NWの整理・調整	居場所がある校区の既存NWの整理・調整 校区連絡会への参加(試行)	居場所がある校区の既存NWの整理・調整 校区連絡会への参加、市社協CSWといこっとCOの意見交換会の実施、民生・児童委員会会長会での事業紹介、学校合同SSW連絡会での事業紹介	居場所がある校区の既存NWの整理・調整 校区連絡会への参加	居場所がある校区の既存NWの整理・調整 校区連絡会への参加	既存のNWの把握 庁内調整 位置づけの調整	既存のNWの把握 位置づけの調整	既存のNWの把握 位置づけの調整
②小学校区域・圏域NWによる、すごし場からささえる場への架け橋。地域内での支援のためのつなぎ。		既存NWと居場所COの連携検討	既存NWと居場所COの連携	既存NWと居場所COの連携	既存NWと居場所COの連携	既存NWと居場所COの連携	既存NWと居場所COの連携	地域内での支援の調整	
③圏域NW内での、居場所運営者が個人で課題を抱え込まないための、ささえる場同士の相互の協力体制による地域内での支援体制づくり	圏域交流会の実施 南部・中西部	圏域交流会の実施 新規：中部・北東部 既存：南部・中西部	圏域交流会 新規：北中部(野畑・少路・北緑丘) 既存：南部(千成町・庄内南、島田) 中北部(熊野田・上野・東豊中)、中部(克明・南桜塚・箕輪)	圏域交流会 新規：北東部(新田、新田南)、北東部(北丘、東丘)、北中部(少路、北緑丘)、中部(克明、桜塚、南桜塚)、中西部(豊島西、原田、豊島北)、中東部(北条、寺内)	圏域交流会・勉強会	圏域交流会・勉強会	専門職派遣等の庁内調整	圏域交流会・勉強会の開催	情報提供
④市域NWで居場所が抱える課題が大きい子ども(家庭)を、公民が連携して支援する仕組みづくり		公民連携支援モデルの検討(事業紹介、協議)	公民連携子ども支援モデルの準備 巴卓会議・WG(多機関連携)での検討	公民連携子ども支援モデル事業の実施	公民連携子ども支援事業の実施	公民連携子ども支援事業の実施	モデルとなる居場所の選定・検証 庁内会議の活用	モデルとなる居場所の選定・検証	情報提供

年度	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4	R5	R6	(作業分担)		
							委託者(市)	受託者 (居場所CO)	居場所運営者
(3) 「ささえる場」の安定的な運営に向けて諸資源を確保する仕組みづくり									
①圏域NWでの、すごし場とささえる場等による地域資源の共有、発掘。相互補完関係構築。	圏域交流会の実施 南部・中西部	圏域交流会の実施 新規：中部・北東部 既存：南部・中西部	圏域交流会の実施 新規：北中部 既存：南部2回、中部2回	圏域交流会の実施 北東部2回、北中部、中部、中西部、中東部	全圏域で実施	全圏域で実施	庁内調整	交流会の運営	交流会への参加
②市域NWでのささえる場同士の連携により、資源の共有、居場所運営のサポート。	円卓会議2回 ボランティア連続講座3回	円卓会議2回 ボランティア連続講座3回	円卓会議2回 ボランティア連続講座3回	円卓会議 ボランティア連続講座3回			庁内調整	円卓会議・連続講座の運営	円卓会議・連続講座への参加や呼びかけ
③支援者と、居場所活動を応援する企業・事業所や大学等とのマッチングを目的とした資源の提供・共有等の仕組みづくり	寄付や資源情報が集まる仕組みづくりの検討	金銭、食材提供マッチング いこっこの整備、寄付の仕組み作り フードデリバリー事業実施	金銭、食材提供マッチング いこっこの運営、寄付の仕組み活用、子どもの居場所づくり推進事業補助実施、他の団体、企業との連携	金銭、食材提供マッチング いこっこの運営、寄付の仕組み活用、子どもの居場所づくり推進事業補助実施、他の団体、企業との連携	子どもの居場所づくり推進事業補助の実施	子どもの居場所づくり推進事業補助の実施	企業・事業者等への情報提供	市域COによるポータルサイトの運営	資源の共有、基金の活用
④子どもの居場所づくりアドバイザー（実践者、衛生、広報、福祉制度、法律等の専門家）派遣	仕組みづくり検討	仕組みづくり いこっこの整備 試行実施	派遣（7件）	派遣（13件）	派遣	派遣	庁内調整	市域COによるポータルサイトの運営	制度の活用

年度	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4	R5	R6	(作業分担)		
							委託者(市)	受託者 (居場所CO)	居場所運営者
(4) 3つの取組み方針を包括的に推進する仕組みづくり									
①圏域コーディネーターの配置	南部・中西部・北西部圏域の配置検討、調整	5圏域で配置	6圏域で配置	6圏域で配置	6圏域で配置 新規1圏域の配置 検討、調整	7圏域で配置	圏域の選定・調整承認	圏域の選定・調整	
②市域NWによるすごし場とささえる場を交えた、包括的な居場所に関する方向性や課題の共有を行う会議の実施	内容協議 円卓会議(文化づくり)	円卓会議2回 ワーキンググループ検討	円卓会議(文化づくり)2回 部会の設置検討	円卓会議(文化づくり)2回 ワーキンググループ3回、いこっとカフェ(テーマ別座談会)2回	円卓会議(文化づくり)2回 ワーキンググループ運営	円卓会議(文化づくり)2回 ワーキンググループ運営	庁内調整	円卓会議の開催 ワーキンググループの運営	ワーキンググループへの協力
③居場所団体のスキルアップと新規支援者獲得を目的とした講習会の実施	ボランティア連続講座3回	ボランティア連続講座3回	ボランティア連続講座3回	ボランティア連続講座3回	ボランティア連続講座の開催	ボランティア連続講座の開催	広報協力	講座の運営と受講生のサポート	受講生のボランティア体験受け入れ
④各地域の多様な分野の居場所関連情報の集約、用途別のマップ作製、啓発	目的・内容検討 支援者向け作成	更新 とよふあみへのいこっと掲載	更新	更新	更新	更新	情報提供	情報収集とマップ作成	情報提供
⑤既存の関連事業を整理し、NWやCO等の資源が、有機的に連動するためのサポート	既存のCOやNWについての整理	既存の関連事業の整理 連動するためのサポート	仕組みの検証	仕組みの検証	仕組みの検証	仕組みの検証	既存の関連事業の情報提供 COやNWについての整理 庁内調整	情報の整理と仕組みづくり	情報提供
⑥地域の居場所や遊び場等の環境について、子ども(家庭)が参画し、意見が反映される仕組みづくり	仕組み検討 しんげニアの検討	新規居場所立ち上げ時等を活用した、子どもが主体で取り組む事業の企画・実施	上新田で一部試行実施	新規居場所立ち上げ時等を活用した、子どもが主体で取り組む事業について、勉強会等で検討	新規居場所立ち上げ時等を活用した、子どもが主体で取り組む事業の企画・実施	新規居場所立ち上げ時等を活用した、子どもが主体で取り組む事業の企画・実施	仕組み検討	企画のサポート 仕組み検討	情報提供